第４部

地域の特性を活かした
まちづくり方針

1　まちづくり方針の概要

（1）まちづくり方針の方向性

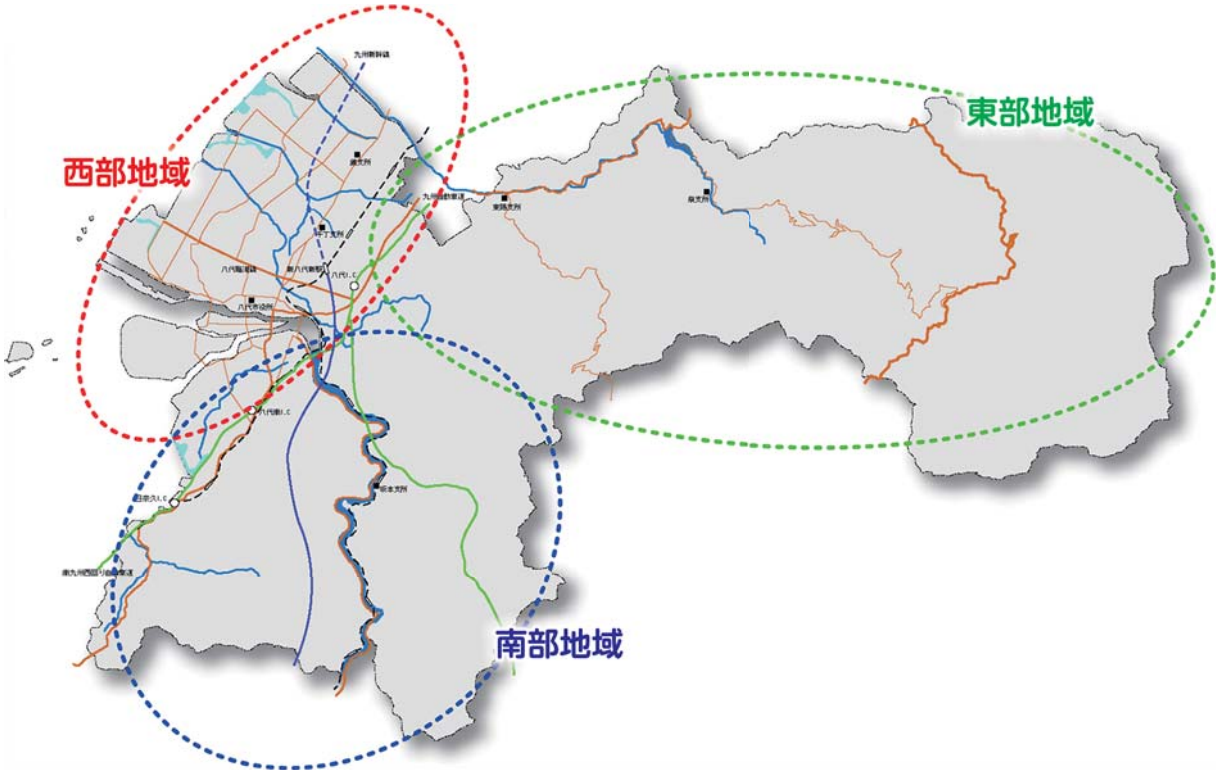
平成 20 年度よりスタートした八代市総合計画では、新市としての一体感の醸成を図るとともに、広範な地域それぞれの特性を活かしたまちづくりを進める観点から、市民アンケートや地域別ワークショップによる市民の意見を基に「地域の特性を活かしたまちづくり方針」を設定し、地域の視点によるまちづくりの方向性を定め、具体的な事業の推進を図ってきたところです。

このような中、これまで旧市町村ごとであった各種団体については、新市における一体化が進むなど各地域間における連携が強化される一方、地域ごとの特性を活かしたまちづくりが市民レベルでも活発になっています。

今後５ヵ年における後期基本計画での取組みとしては、市民意見が最大限に反映されたまちづくり方針を継続しつつ、現状に即した取組みを推進していくことが必要となっています。

（2）地域の設定

広範な市域において、日常生活圏や歴史的経緯、地勢、土地利用の状況を基本に、今後の地域間の連携や地域バランスなどを考慮して、３地域（西部地域・東部地域・南部地域）に区分します。



（３）地域の特性を活かしたまちづくりの推進

少子・高齢化、核家族化、生活様式の多様化といった社会環境の変化により、地域の抱える課題は多種多様化しています。そのため、市民と行政とが力をあわせた取組みの重要性は今後ますます高まってくるものと思われます。

このようなことから、今後５ヵ年においても前期基本計画の考え方を継承し、次のとおり市民と行政の協働のもと、地域の特性を活かした住民自治によるまちづくりをすすめていきます。

- 市民の自主的・主体的な参画による地域振興
- 地域間交流や連携をすすめ、それぞれの地域の個性を重視した地域振興

２　地域別まちづくり方針

（１）西部地域

現状と課題

西部地域には、公共施設や工場、商業施設などが多く立地し、また、国の重点港湾に指定された県下最大の港湾八代港があります。さらには、九州新幹線、九州縦貫自動車道、南九州西回り自動車道などの交通アクセスに優れた地域であることから、地理的優位性を活かした企業誘致を推進することにより、産業の活性化や雇用の創出が求められています。

また、八代海に面し、広大な干拓地と豊富な水資源に支えられた八代平野が広がる西部地域においては、米・い草のほか、園芸作物などを中心に農業が盛んに行われています。しかし、近年は国内外の経済情勢によって、農作物の産地間競争が激しさを増しつつあり、持続性の高い力強い農業の推進が求められています。また、漁業においては、水害などによる水産資源の減少が見受けられることから、安定的な漁獲条件を確保するため、八代海や球磨川の環境保全が求められています。

地域の経済活力の低下や少子高齢化の進行により、近年、まちのにぎわいが失われつつあり、特に、八代地区と鏡地区に形成されている中心市街地は、人口の流出、空き店舗の増加、ロードサイド型や郊外型大型店の出店などにより、居住地・商業地としての活力が低下してきています。

一方で、平成 23 年 3 月に九州新幹線が全線開業したことで来訪者の増加も期待されることから、今後は新八代駅周辺の基盤整備をさらに推進し、交通インフラの優位性を高め今後のまちづくりに活かしていくことが求められています。

まちづくりの目標と施策の方向性

八代の産業を牽引するまち

まちづくりの目標

新幹線や高速道路などの交通利便性や肥沃な八代平野などの地理的優位性を活かし、八代の産業を牽引する活力にみちた元気あるまちづくりをすすめます。

施策の方向性

- 新幹線や高速道路、八代港などの交通利便性を活かし、企業誘致をすすめ、若者も中高齢者も働ける雇用の場の拡大を図ります。
- 地場企業の育成・発展を目指し、産学官の連携による新産業の創出や人材育成などの支援を図ります。
- 統一産地表示の普及促進などにより畳の良さを広くＰＲするなどの取組みをはじめとして、い草・トマトなどの農産物のブランド化を支援するとともに、農産物の高付加価値化を図ります。
- 生産性の向上による耕地の有効活用を図るとともに、農業用排水路や排水機場など農業生産基盤の整備を進め、災害に強い農地の形成を図ります。
- 農業の担い手を育成するため、子どもの体験学習や農家の技術力の向上を目的とした技術養成講座などの充実を図ります。
- 安全・安心な水産物を提供するため、漁協などとの連携により水質保全と魚場の整備をすすめるとともに、栽培漁業を推進し、安定的かつ継続的な漁業経営を図ります。
- アジアとの交流の玄関口として、重点港湾八代港の港湾機能の整備促進及びポートセールスの強化を図ります。

人が集まるにぎわいのあるまち

まちづくりの目標

商店街の活性化や新八代駅周辺の整備などをすすめ、都市の魅力を高めることにより、人が集まり、にぎわいのあるまちづくりをすすめます。

施策の方向性

- 商工会議所･商工会などとの連携により商業の活性化を促進し、居住人口･交流人口の増加を図ります。
- 交流拠点として新八代駅周辺の基盤整備をすすめ、市内各地域に点在する豊かな観光資源を結ぶ観光ルートの確立を図ります。
- 妙見祭や、やつしろ全国花火競技大会などの各種イベントをはじめ、スポーツや健康、歴史・文化などを活かした新たな魅力づくりを推進し、市外からの集客を図ることで市全域へのにぎわいの創出につなげます。

（２）東部地域

現状と課題

東部地域は、自然豊かな山間の地域で、河岸段丘や山腹に集落や耕地が点在しています。主な産業は農業で、生姜やお茶が特産品となっています。また、九州中央山地国定公園区域を含む広大な山林など豊かな自然により、古くから林業が盛んに行われてきました。

地域の東側、九州最後の秘境、平家落人伝説を秘める五家荘には、毎年、多くの観光客が訪れています。また、地域の西側は、種山石工（※）の発祥地として知られ、現在も多くの石橋が残っており、五家荘地域とともに東部地域の大きな観光資源となっています。

しかし、近年は少子高齢化の進行が著しく、担い手の減少などを背景に東部地域の主産業である農林業を取り巻く状況も悪化していることから、今後は農産物の魅力向上、担い手の育成、六次産業化の推進による一次産業の振興とともに、地域資源を活かした観光産業の振興を図る必要があります。

併せて、地域住民や観光客など来訪者の重要な移動手段である公共交通の維持確保を図っていくことも求められています。

また、東部地域の貴重な資源である豊かな森林については、木材生産機能の充実や森林の持つ多面的な公益機能が十分に発揮できるよう、自然を保護しながら森林の保全と林業振興を図っていく必要がある一方、急傾斜などの危険箇所も多いことから、集中豪雨などの自然災害による大きな被害が多発しており、災害防止対策を促進する必要があります。

さらに、過疎化・高齢化により消防団員なども不足している状況にあり、東日本大震災以降、「安全・安心」のまちづくりが一層求められる中、防災体制の強化に継続して取り組む必要があります。

（※）種山石工：江戸後期、現在の東陽町に居住していたとされる石工の技術者集団。

まちづくりの目標と施策の方向性

まちづくりの目標　豊かな自然とふれあい、歴史と伝統が息づくまち

自然資源の保全に努め、自然景観を活用し、人と自然が共生するまちづくりをすすめます。また、歴史的遺産や古代踊り、神楽などの伝統芸能の保存・継承に努めます。

施策の方向性

- 自然のすばらしさに関する学習の機会を創出するなど、豊かな水や緑の保全について市民への意識啓発を行います。
- 希少な動植物などの生態系に配慮した土地利用や施設整備に努めます。
- 森林が持つ国土保全や水源かん養などの災害防止機能を高める森林整備をすすめます。
- 生活及び地域間交流の利便性、安全性の向上、災害時における迂回路としての役割などを考慮しながら、計画的な道路整備を図ります。
- 近年は局地的集中豪雨など気象の変化が予測できない状況も発生していることから、土石流の発生する可能性が高い場所やがけ崩れ・地すべりなどの危険箇所の土砂災害防止対策を促進します。
- 住民参加型防災訓練の継続的な実施とともに、防災行政無線の確実な運用、自主防災組織の強化、消防団員の確保・育成を図ることで、安全・安心のまちづくりを推進します。
- 古代踊り、神楽などの伝統芸能を保存・継承するため、保存活動を推進します。

まちづくりの目標　美しい風景と魅力ある特産品に笑顔が集うまち

お茶や生姜などを活かした農林業の活性化や五家荘、石橋などの特色ある観光資源を活かした観光振興を図り、地域間交流をすすめ、人が集うまちづくりをすすめます。

施策の方向性

- お茶、生姜、椎茸やかんきつ類などの特産品のブランド化・ＰＲによる商品力の強化、農業担い手の育成、農業の六次産業化に対する支援に努めることにより、農業振興を図ります。
- 林道などの生産基盤の整備や適切な森林施業の実施に努めるとともに、八代産材の利用促進を継続し、消費拡大への寄与に努めるなど豊かな林業資源を有効活用した林業振興を図ります。
- 石橋や五家荘などの観光資源のほか、山里に受け継がれる風土や生活文化を活かした体験・学習・交流プログラムを整備するとともに、民宿やガイド組織、まちづくり組織の活動を後押しするなど、実践コミュニティの活動充実による観光振興を図ります。
- 乗合タクシーなど公共交通機関の整備に努めるとともに、利用促進を図ります。

（３）南部地域

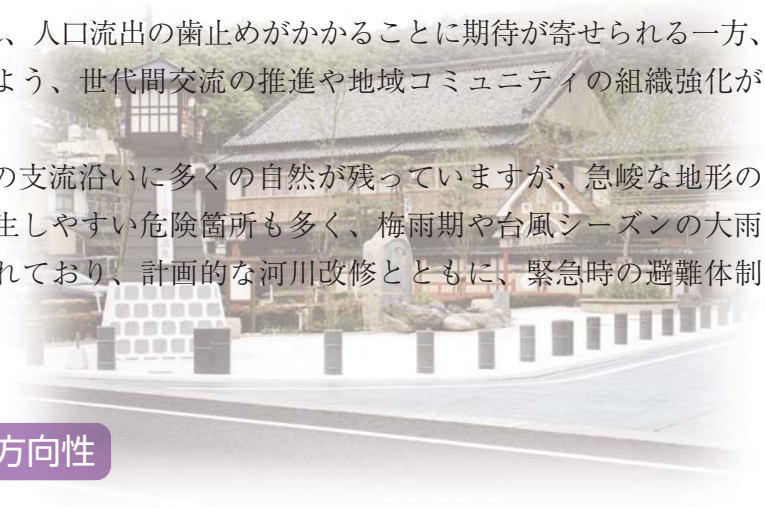
現状と課題

南部地域は、日本三大急流の一つである球磨川が地域の中央を南北に流れ、急峻な山地の多い東側と、比較的標高が低く耕地が広がる西側に分かれています。

地域の東側では、農林業が発展してきましたが、近年の農林産物の価格低迷や山間部という地理的な要因から、地域の担い手が都市部へと流出し、人口減少が著しく高齢化率も高くなっています。また、観光の中心であった県下有数の古い歴史を持つ日奈久温泉では、観光客のニーズの変化などにより、観光客が大幅に減少しており、にぎわい再生への取組みが求められています。

今後は、安定的な雇用がなされ、人口流出の歯止めがかかることに期待が寄せられる一方、誰もが安心して元気に暮らせるよう、世代間交流の推進や地域コミュニティの組織強化が望まれています。

加えて、球磨川をはじめ、その支流沿いに多くの自然が残っていますが、急峻な地形のため、がけ崩れ、地滑り等の発生しやすい危険箇所も多く、梅雨期や台風シーズンの大雨の際には河川の氾濫が繰り返されており、計画的な河川改修とともに、緊急時の避難体制づくりなどが望まれています。



まちづくりの目標と施策の方向性

まちづくりの目標

清流と緑、観光資源を活かしたうるおいのまち

球磨川をはじめとした豊かな自然や古い歴史をもつ日奈久温泉などの観光資源を活かしたまちづくりをすすめ、交流人口の増加を図ります。

施策の方向性

- 河川工事などが実施される際は、景観や生態系に配慮した工法等の導入を促進し、環境保全に努めます。
- 全国初となる県営荒瀬ダムの撤去を契機とし、豊かな自然・景観を、観光や環境学習の資源として活かすために、自然とふれあえる場の創出に努めます。
- 日奈久地域の歴史や温泉文化などを活かした体験・学習・交流プログラムを整備するとともに、民宿やガイド組織、まちづくり組織の活動を後押しするなど、観光関係者や地域住民が一体となったおもてなしの向上を図ります。
- がけ崩れ・地すべり・高潮などの危険箇所の対策事業と、護岸崩壊や漏水などを防止する河川改修などの整備を促進するとともに、災害時における迂回路機能を併せ持たせることなども考慮した計画的な道路網整備を推進します。

まちづくりの目標

若者が育ち、誰もが生きがいをもって暮らせるまち

八代の未来を担う人が育つまちづくりをすすめるとともに、誰もが生きがいをもち健やかに暮らせる地域コミュニティの充実したまちづくりをすすめます。

施策の方向性

- 短期大学・高等専門学校などの教育機関と地域との連携によるまちづくりの取組みを支援することにより、地域の活性化を図ります。
- 地域コミュニティ独自の取組みを継続発展出来るよう支援し、市民間のコミュニケーションの充実を図ることにより、地域におけるまちづくり活動の活性化と防災・防犯体制の構築につなげます。
- 少子高齢化が進む山間部においては、生活交通確保のため乗合タクシーなど公共交通機関の整備に努めるとともに、利用促進を図ります。